

幹部に責任回避の意識

統計書き換え 第二者委が検証報生口

国土交通省の第二看護師会（会長・寺脇一峰元大坂高検事長）は十四日、建設受注統計書き換えの検証報告書を公表した。職員が是正を提案したのに、上司が取り合わないなど「幹部職員に責任追及を回避したい意識があった」と批判。不適切な処理が続いたのは、統計業務の経験による担当部門の人員不足や、情報共有の不十分さが原因と認定した。

国交省関係者を処分へ

統計業務を軽視して人員を配置せず、幹部も現場任せにしていた
あえて統計的に大きな数字を公表しようとする作戦的な癡図はなかった
問題発覚後の対応は矮小化を図るなど適切でなかった
都道府県への書き換え指示は遅くとも2000年には始まっていたが、開始時期は明らかではない

寺脇課長は記者説明で「見る人によつては敵工作と評価されても仕方ない」と述べた。後手に回つた対応に、十七日召集の通常国会で野党の追及が強まりそうだ。国交省は担当部門を見直し、関係者を処分する。齊藤铁夫国交相は記者団に「過去の統計復元や、再発防止の検討の場を早急に立ち上げる」と述べた。

國交省は政府の基幹統計「建設」事業受注動態統計調査」について、毎月の提出期限を過ぎて過去の調査票が提出された場合、全て最新用紙として合算するよう、都道府県に調査票を書き換えさせた。指令は遅くとも二〇〇〇年に始まつていたが、「開始時期は明

られた。一九年六月十四日、統務省統計委員会も十四日、統計法を所管する総務

「らかではない」とした。動機は「業者が時間を置いて記入した調査票を無にできないとの姿勢など」であった」と分析。「担当門は人的な余裕がなく、直す機会もないまま安直手法を続けた」と結論付た。

提出のなかつた月は国交省側が推計値を計上する処理に変更、同一業者の受注二重計上が生じた。この時点で合算をやめるべきだったのに、担当部門で問題が共有されていなかつた。ただ「統計的に大きな数字を公表する作為的な意図はなかつた」とした。